はーとふるメッセージ2002

～わたしと人権～

特選作品紹介
第　6　回

作文・中学生の部

学年は、応募時のものです。

三十日真奈（みとおかまな）さん
（南中学校１年）

人の立場と気持ち

私のクラスのAちゃんは、一人でいることが多い。人から声をかけられるとビクビクしているように見える。私が話しかけた時も、とまどって、しばらくたってから返事をしたり、はっきりした返事が戻ってこないこともある。

ある日、私のクラスはクラス対こうの大縄大会に向けて練習を始めた。縄を回す人はAちゃんとBちゃんである。

Aちゃんは、
「私がやりたい。」
と言って立候補した。回す人が決まってから、みんなで何回もがんばって練習した。
「いっせえの―で！」
というかけ声に合わせジャンプするのだが、一回も飛べなかった。私たちはいろいろ工夫した。縄を回す人に、もう少し大きく回してもらうよう頼み、自分たちはもっと高くジャンプするようにした。Bちゃんは、私たちに言われてから、縄の回し方が大きくなり、とても上手になった。けれどAちゃんはうまく回せず、
「ねえ、もっと大きく回してよ。」
「ここまで縄をもって、手を大きく動かして回すんやで。」
と、みんなから何度も言われ、時には他の子が、
「私がやるよ。」
と言ってAちゃんと代わり、Aちゃんは泣きそうな顔になった。その顔を見て私は、
「他のクラスに勝つためには上手な人が回さないと飛べないけど、いつもおとなしいAちゃんが自らやってみたいと言ったのに無理に代わるのもかわいそうだな。どうしたら一番いいんだろう。」
と、とても悩んだ。その日は一回しか飛べなかった。

日が過ぎ、いよいよ大会当日になった。結局Aちゃんの「やりたい。」という意思をみんなが受け入れて、本番もAちゃんが縄を回すことになった。練習中の最高記録は二回だ。今日はもっと飛べるかな…と、少し不安だった。準備が終わり、いよいよ私のクラスの番になった。十回以上も飛んでいるクラスがあった。私たちもあきらめず、みんなでかけ声を合わせ、がんばった。だけど一回も飛べず最下位だった。それでもAちゃんを責める人はだれもいなかった。

また、この結果に対してやじをとばす人も文句を言う人もいなかった。不思議とさわやかな気持ちになった。一生懸命がんばってもできないことがある。そしてそれをどう受けとめるかにより結果は変わるかもしれない。例えば、がんばって練習してできなかったら、他のできる人に代わる。または、縄を回したい、回したくないに関係なく、最初から上手な人が回すなどである。どれが正しいかまちがっているかは人によって受け止め方が違うと思う。でも私は、縄を回したいと言うAちゃんの気持ちを考えることが一番大切だと思った。大縄大会後、クラスのみんながますます好きになった。

選評

「人間っていいな」と、大空に向かって叫びたくなるような、さやわかな感動が伝わってきます。

人は常に、自分を見つめ成長したいと願っていても、それに必要な勇気と場ときっかけが得られないのです。

そこで、心機一転、この機会を得た友達の思いが以心伝心して、ここに見事な和が実現したのは、人としての勝利そのものです。

ポスター・一般の部

髙井豊（たかいゆたか）さん
（正法寺町）

「はーとふるメッセージ2003」の作品募集については、13ページをご覧ください。